

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800144		
法人名	(株)エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム 錦帯橋・みどりの家		
所在地	山口県岩国市岩国1丁目20-36		
自己評価作成日	平成23年8月27日	評価結果市町受理日	平成24年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を大切にホーム作りを行っています。地域や関係機関との連携も大切に情報交換を密に行っています。外食やお出かけを行い地域の行事やイベントへ積極的に参加をしています。食事は手作りで地産地消を心掛けています。施設名にもあります、岩国の名勝「錦帯橋」は徒歩3分の距離なので最適な散歩コースとなっています。また、協力病院はホームの隣にあり、安心な環境の重要な要素となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念である「ゆっくり・いっしょに・たのしく」のもと、毎日10時からオリエンテーションとして利用者と職員が一緒にお茶を楽しみながら、その日一日の過ごし方の希望や思いなどを話しておられ、散歩に合わせて喫茶を楽しんだり、近所のスーパーで食材の購入をされるなど、利用者一人ひとりの思いや希望を大切に支援に努めておられます。毎月請求書と一緒に行事案内や事業所便りなどを送付しておられ、6か月ごとの介護計画の更新に本人や家族が出席されたり、年2回開催される家族会では、利用者と一緒にゾーメン流しなどの行事を楽しんだ後、家族から意見や要望を聞いて意見交換をされるなど、家族との連携を深めるよう努めておられます。新人職員研修として、利用者を理解する為に1日全く業務につかず利用者と一緒に過ごすだけという研修を取り入れたり、業務遂行の為に組織づくりを部会活動として位置づけ、職員一人ひとりが役割意識を持ち働きながら学べるように職員を育てる取り組みをされています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム各フロアで目につく場所へ掲示している。人事考課や会議の場で確認を行っている。	「ゆっくり・いっしょに・楽しく」という事業所独自の理念を掲げ、事業所内に掲示し、管理者と職員は会議等で理念を共有し実践につなげている。地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっていない。	・地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の検討
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事や清掃活動へ入居者様と一緒に参加をしている。	自治会に加入し、利用者も地域の神社の祭や清掃活動に職員と一緒に参加している。事業所で開催する餅つきや敬老会には地域の人も参加し、利用者が日常的に地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩を通じてを挨拶や日常的なコミュニケーションを通じて地域の方々への理解・啓発を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ホームを開設し初めての外部評価となる。外部評価を通じて指摘事項を真摯に受け止め、サービスの質の向上につなげていきたい。	評価の意義について管理者が全体ミーティングで説明し、各職員が自己評価をして管理者がまとめている。評価を活かして今後のサービス向上につなげていくよう努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し毎回、地域の方の参加もいただき、勉強会や避難訓練を行っている。また、ホームでの抱えている問題も議題に挙げて参加者からの助言をいただいている。	奇数月の第3水曜日を開催日とし、定期的に開催している。取り組み状況や利用者の状況、行事報告等をし、高齢者の疑似体験や避難訓練なども行っている。ソフト食の提案など、参加者の意見交換や提言、事業協力もあり、意見や提言はサービスに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課とはメールでの情報交換を行っている。また、市の防災メールに登録しており、随時気象情報(注意報・警報)を入手できるようにしている。	地域包括支援センターの職員とは、日常的な連絡連携体制が作られている。市担当課とはメールで情報交換を行っており、防災についても市の防災メールに登録し、情報の収集を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしないよう、見守りの体制を話し合い運営推進会議や家族会を通じて意見を求めながら対応をしている。	マニュアルを作成し、研修を実施して職員は正しく理解しており、家族会や運営推進会議でも見守り体制を話し合い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを実践している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止部会を設置し研修参加やホーム内研修の準備を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者はいないが、入居時の相談等においても関係機関を紹介し、連携を図っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は2名の職員が立ち会っている。契約書及び重要事項説明書以外に「ご案内」の冊子も準備しわかりやすいよう説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、家族会、苦情報告、意見箱を設置し、頂いた意見をホーム内で周知し運営に反映させていただいている。	年2回の家族会、運営推進会議で意見を聞く機会を設け、玄関入口に意見の投函場所を確保し、面会時や電話などでも随時受け付けをしている。苦情や意見、相談などの受付体制や処理手続きを明示し、周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、社員会議、フロア会議、リーダーミーティングを開催し意見交換を行っている。半年に1回人事考課と合わせてリーダー面談とホーム長面談を行い、意見を行っている。	毎月開催する全体会議やフロア会議等で提案を聞き、6ヶ月毎に管理者やリーダーとの面談を行い、意見を聞く場となっている。業務を通した随時の提案もあり、それらを運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人前回の研修や親睦会、ホーム見学会を開催し情報交換を行っている。処遇改善交付金を年2回支給している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ホーム内研修(ミニケア会)及び法人全体研修(合同ケア会)を開催している。また、外部研修への積極的な参加、情報提供を行っている。フレッシュャーズ研修等法人内研修を行っている。	毎月事業所内研修を実施し、法人全体研修も年2回開催しており、外部研修の受講の機会の提供や資格取得を支援している。3年以内の職員のフレッシュャーズ研修を法人で開催し、経験に応じ、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所グループホーム協会の研修会への参加を行っている。地域密着サービス全国大会へ参加するなどネットワークづくりや勉強会へ参加をしている。系列のサービス事業者へ見学や実習を行いサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人面談や自宅訪問を行っている。今までの生活習慣や価値観、要望を記載するシートを準備しており、入居前に家族様とご本人様が記載してくださり、参考にしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との面談を行っている。今までの生活習慣や価値観、要望を記載するシートを準備しており、入居前に家族様とご本人様が記載してくださり、参考にしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームのご案内の冊子を元に話し合いを行い、要望や意見を聞き取り、入居者様、ご家族様、ホームでの役割分担を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりの生活習慣や能力に応じた役割分担を行っている。また、毎日フロア全体でミーティングを行い、意見交換を行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様宛にお便りを送付し日頃の様子を報告している。また、ホームページにご家族様専用の掲示板を設置してある。ご家族様へも可能な限り支援への介入をお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活場所の知人の面会や利用していた介護サービス職員の面会もあり、オープンなホーム作りをお心掛けている。	利用前に住んでいた自分の家の草取りや様子を見に行ったり、馴染みの理美容院の利用や商店での買い物など、利用者が今まで培ってきた馴染みの関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を職員が把握するよう努めている。毎日、オリエンテーションを行い、職員と入居者様での話し合いの場を設けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される場合は転居先の施設への情報提供を可能な限り行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用しながら、日々の記録からニーズを把握するようにしている。また、センター方式の研修を行うなどして、希望や想いを把握できるよう導入に向けて取り組んでいる。	利用者は毎日10時から開催されるオリエンテーションに職員と共に参加し、お茶を飲みながら、その日の予定や希望、思いなどを話し合っている。アセスメントの工夫やセンター方式の活用などで利用者の思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や施設、介護サービス事業者から情報提供を受け、入居前の暮らしを把握できるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を通じてフロア会議を設けて、日々の関わりの中での情報を交換し共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアへの振り返りシートを設けており、日々の出勤者で計画の進行状況、達成度を話し合い、必要に応じて計画の見直しを行っている。	職員は毎日、ケアの振り返りシートを記入し介護計画の進行状況・達成度について話し合っている。介護計画・モニタリングは6ヶ月毎に実施しており、状況の変化に応じ、計画の見直しも行っている。介護計画作成時には家族も参加し、話し合っており、利用者本人が参加する事もある。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を通じて、申し送りをと連絡ノートを通して情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の生活習慣やニーズに応じて業務マニュアルや取り組みを変更し、利用者本位の生活が送れるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの力を借りながら、行事等の運営にご協力いただいている。また、地域の行事へ参加することや近隣の商店を活用し交流を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診を受けており、検査等は必要に応じて通院の付き添いを行っている。また、入居前のかかりつけ医を選択されている入居者様もおられ、必要に応じた治療が受けられるようにしている。	事業所に隣接した協力医療機関や今までのかかりつけ医を主治医としている。2週間に1回の往診や情報提供書のやりとり、受診の支援など適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノート、往診記録を活用し情報の共有と保管を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の担当医及びワーカーと連携を図っている。お見舞い時に病棟の担当者と情報交換を行うなど、連携を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関する指針を会社全体で作成している。入居者様、ご家族様、主治医と話し合いを持ち、最善策を検討するようにしている。	法人としての指針があり、利用者や家族に説明している。重症化や終末期を迎えた時はその都度、利用者や家族・主治医・関係機関と話し合い、訪問看護の利用なども視野に入れ、利用者や家族にとっての最善策を検討している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	応急手当や救急命の研修を行っている。緊急時マニュアルを作成し勉強会を行っている。事故報告やヒヤリハット報告書を職員間で回覧し情報共有を行っている。	マニュアルを作成し、ヒヤリハット報告書や事故発生報告書を基に職員間で話し合い、利用者一人ひとりに応じた再発防止や事業所内の事故防止に努めている。応急手当や初期対応の研修をしているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員の定期的な研修訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。そのうち1回は地域の方も参加いただいている。	市の防災メールに登録し、年2回利用者も参加して避難訓練を実施している。1回は運営推進会議出席者も参加している。	・地域との協力体制の検討

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人面接や往診は居室で行っている。個人名の入っている書類はシュレッダーを使用。言葉使いに関しては会議や個人面談、研修を通じて啓発を行っている。	言葉かけや対応について、職員のミーティングや個人面談、研修の場で気をつけるよう話し合っており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オリエンテーションや個人面談にて希望の表出を図っている。また、自己決定できるよう説明と同意を大切にに関わりを持っている。また、情報提供をタイムリーに行えるよう掲示等で工夫をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、オリエンテーションを行い、その日の行事や食事内容、外出、行事に関する情報、入浴の希望などを共有している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては2カ月に1回業者からの訪問カットを行っている。また、毛染めや行きつけの美容室への付き添い介助も行っている。衣服の選択はご本人様に行っていただき、清潔が保てるようこまめに洗濯を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じた役割分担を行っている。趣向に関しては、意見交換の場を設定しており、一緒に買い物へ行くなどして選択できるよう努めている。	利用者一人ひとりの好みや希望を聞いて、一緒に買い物に行き、調理や後片付け等利用者のできることを職員と一緒にしながら、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの好みを把握し、旬の素材を取り入れるよう努めている。また、食事形態や好き嫌いにも対応し代替を用意するなど工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯や義歯に応じてケアを行っている。協力病院の歯科受診もあり必要に応じて往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンをケア記録にて分析し必要に応じて声かけや案内を行っている。心身の状態に応じて福祉用具を活用するなどして排泄の自立にむけて努めている。	排泄パターンをケア記録に記入し、必要に応じてトイレの声かけや誘導など個別に対応しており、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し、乳製品やきな粉などの健康食を取り入れている。また、適度な運動を行い、排泄状況の把握をおこなっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの生活習慣に合わせて入浴を行っている。また、入浴状況を記録し清潔が保てるよう把握に努めている。	一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、午後から(希望によっては19時～20時頃まで対応)個別に入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間の設定もなく自由に過ごしていたでいる。個室を活用し、思い思いの時間で眠られている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局による居宅療養管理指導を受けており、薬剤師との連携を図っている。また、服薬リストをファイリングしており、服薬内容や効果を把握できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵画、裁縫などの趣味活動やドライブ等の戸外への支援を行っている。自宅訪問や菜園などそれぞれの趣向に応じた取り組みを行っている。	ボランティアによる花セラピーやパッチワーク、絵画等の趣味活動、調理、洗濯、布団干し、菜園の手入れなどの家事活動、喫茶店、理美容院の利用など、一人ひとりが張り合いのある日々を過ごせるよう、楽しみ事や気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、理美容への支援。行きつけの喫茶店、カラオケ、美術館などの外出支援をご家族様と協力して行っている。	居室やリビングから自由に外庭(二階はベランダ)に出ることができ、戸外の空気を感じ、菜園や周りの風景を眺めることができる。家族の協力も得ながら、一人ひとりの希望にそって散歩や買い物、ドライブ、美術館、山野草展、演奏会、カラオケ、買物などに出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方に関しては自己管理。自己管理ができない方に関してはホームでの立替にて対応している。基本的にご本人様とご家族様の意向で管理の有無を相談させていただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はなく、意向に応じて行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気でも過ごせるよう心掛けている。掲示物はみやすいよう字の大きさや高さに注意をしている。対面キッチンで誰でも台所で過ごせるようオープンにしている。	リビングは明るく、戸外の風景を眺めることができ季節を感じられ、対面キッチンや各自が作成した絵画や作品の壁面への展示など、家庭的な雰囲気でも居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングキッチンで各が自由に過ごしている。庭にも自由に出て洗濯や花の手入れを行っている。個室や庭のベンチで思い思いに過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は今まで使用していたものを持参している。仏壇を持参されている方もいる。	使い慣れた寝具類やタンス、テレビ、装飾小物などを持ち込み、家族写真を飾るなど、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。仏壇を持参している利用者もある。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の能力を最大限活用できるよう、過剰なサービスは提供せず、できることをしっかりとさせていただけるよう意識している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 錦帯橋・みどりの家

作成日： 平成24年 2月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえ理念の検討	ホーム内での運営理念に地域貢献に関する理念を検討する。	グループ全体のクレドを参考にホームに適した理念をホーム全体で話し合う。	6ヶ月
2	35	全職員の定期的な研修訓練の実施	全職員が研修訓練を受けられるような環境を整備する。	会社全体の研修はあるが、ホーム内では出席可能な者のみの参加なので、同じ研修を2回実施するなど、研修に出席できなかった者への参加の機会を確保する。	6ヶ月
3	36	地域との協力体制の検討	地域との協力体制を構築する。	地域行事への参加を積極的に行なうとともに、地域住民が出入りしやすいホーム作りを行なうため、行事やボランティア活動を通して密にする。また、回覧板等を通じてホームの活動を理解していただけるための情報を発信し続けていく。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。